

# 地域の農業と 集落営農を守りたい！

## 有限会社 アグリサポート門前寺

NPO法人アグリサポートネット会員・平野 稔

東北が「日本の食糧基地」と言われ出して久しいが、日

本の食糧自給率は、2010年から40%を下回っています。

この数年の間で政権が自民党、民主党、自民党へと目まぐるしく変わり、それに伴って農業政策も大きく変動し農業の先行きが見えづらくなっています。さらに、東日本大震災による福島原発事故に伴う放射能被害が、本県の畜産やしいたけなどにも大きな影響を落としています。

ここに来て、2月22日の日米首脳会談で、「日本農業の壊滅的な打撃が必至」と言われるTPP問題が参加に向けて

動き出し緊迫した情勢になってきています。

こうしたなかで、国内農業・農村を取り巻く情勢も大きく変化してきています。農業の担い手の減少や少子高齢化も加速的に進行しています。

### 地域の概況

盛岡市玉山区門前寺地区は、市道黒石野門前寺線と県道169号洪民川又線が交わり、ここで、そこから少し進むと国道4号線洪民バイパスにつながります。

市道黒石野門前寺線は、盛岡市松園地区から玉山区門前寺字独活倉地区へと通じる旧

奥州街道ルートで、沿道には笹平一里塚と独活倉一里塚があります。

この地域は、戦国時代に川村一族の勢力下であり、玉山館跡、日戸館跡、門前寺館跡などの山城が残っています。

また、石川啄木の生家常光寺や東楽寺などの古刹があります。

### 地域農業の概況

門前寺地区は、地区の北側を濁川が流れており、地域全体が起伏の大きい丘陵地です。

昭和16年から43年まで長い年月をかけて取り組まれた「国営岩手山麓開拓建設事業」

### 会社の概要

名称●有限会社  
アグリサポート門前寺  
代表取締役 立花 剛  
設立●平成16年4月5日  
資本金●300万円  
電話&FAX●019-683-1506  
従業員●4名

### 経営内容

経営対象目●所有地：水田372a、牧草畑265a  
借入地：水田437a、牧草畑855a  
施設●牛舎(429㎡)2棟、ハウス牛舎(200㎡)1棟、水稻育苗ハウス(528㎡)3棟、農舎(158㎡)1棟  
機械●トラクタ4台、シーダー(小麦・大豆用)2台、田植機(6条4人共同)1台、コンバイン(6条・4条)2台、牧草用機械(4人共同)一式



代表取締役 立花 剛さん

で、岩洞ダムからの農業水利施設事業（昭和36年完成）及び柏木平地区の開田事業（昭和35年完成）によって水田面積が大幅に増えました。

以降、門前寺地区は、丘陵地を活用した酪農・肉用牛の畜産経営と開田で増加した稲作経営が、地区農業の主体として営農が続けられてきました。

しかし、門前寺地区でも高齢化や担い手の減少が進み、水田面積の30%を超える転作物の作付けが困難になってきています。

今回は、この地域の課題に対応して特定作業受託に取り組んでいる「有限会社アグリサポート門前寺」を紹介します。

## 農業法人の設立

代表取締役の立花剛さんは、肉用牛繁殖経営の傍ら土建業の有限会社を経営してきました。

その土建業も、バブル崩壊

後の公共事業の減少等により仕事量も少なくなりました。

地域では、畜産と稲作経営のため野菜栽培の経験が無く、水田面積の30%にも達する転作は小麦と大豆の作付けが主体でした。

また、地区内の高齢化と担い手の減少が進み、転作物の作業委託の要望が高まってきました。

このような地域の状況の中で、地域の要望と指導機関の支援を受け、これまでの土建業と大型機械取扱いの経験を活かして、平成16年4月5日に「有限会社アグリサポート門前寺」を設立しました。

これまで水稲経営と肉牛繁殖経営に加え、転作小麦と大豆生産を借地により拡大してきました。

有限会社設立当時には、所有地で水田373a、牧草畑265a、借入地で水田437a、牧草畑855a、合計で水田810a、牧草畑1,

表1 農業経営の推移

作目	平成17年	平成22年	平成24年
水稲	230a	200a	50a
転作小麦	310a	310a	310a
転作大豆	270a	270a	270a
転作飼料米	—	30a	180a
繁殖牛	29頭	40頭	42頭
牧草地	1,120a	1,120a	1,120a
合計	1,930a	1,930a	1,930a

120aまで経営規模の拡大を進めました。

## 法人の活動内容

設立に当たり自己所有農地の会社への譲渡を考えましたが、贈与税が想定され断念しました。

設立当初の平成17年の全作業受託面積は、小麦2,830a、大豆1,490a、合計4,320aの実績となりました。

設立3年目の平成18年には、

表2 特定作業受託の作目と面積の推移

作目	平成17年	平成22年	平成24年
小麦	2,830a	2,710a	2,710a
大豆	1,490a	1,230a	870a
飼料米	—	520a	760a
デントコーン	—	230a	350a
牧草	—	790a	790a
合計	4,320a	5,480a	5,480a

※平成17年は、全作業受託

作業受託は特定作業受託とし、自作地の転作作業及び飼料作物・牧草作業も有限会社の特定作業受託面積に組み入れました。

平成24年の特定作業受託面積の実績は、転作小麦2,710a、転作大豆870a、飼料用米（転作）350a、デントコーン790a、牧草790a、合計5,480aの実績となっています。

この間、水稲作付面積230aを平成22年に200aに、



農業機械整備場



笹平一里塚



車両庫



ハウス牛舎

平成24年には自家用の50aにまで縮小し飼料用米に転換しました。

飼料用米はコンバイン収穫後の稲わらをロール梱包し、

肉牛の粗飼料として自家利用しています。

これに合せて、繁殖肉用牛の頭数を平成17年29頭、平成22年40頭、平成24年42頭と拡大し経営内容

の改善を進めてきました。

### 課題と今後の取り組み

現在、転作小麦・大豆の

特定作業受託は、地区内と地区外がほぼ

同じ面積となつていきます。

転作小麦・大豆とも栽培年数が長期になり連作障害が懸念されるようになってきて

ています。

今後、小麦の赤カビ病、

大豆のマメシンクイガ等の病害虫対策及びたい肥や土壌改良剤による土壌改良を進め、品質の向上や収量の安定を図ることが課題となつてきています。

また、飼料用米栽培との輪作も進めることが課題です。

かつて、地区内に酪農家や肉用牛経営農家は30戸余りありましたが、現在は酪農経営7戸と肉牛経営8戸に激減しています。

地域の畜産経営の維持対策として、飼料用米の栽培及び飼料作物・牧草の作業受託も今後の課題と考えています。

地域の高齢化及び担い手不足は、今後とも進行し、それに伴い特定作業受託面積の拡大が予想されます。現在所有している農業機械の更新及び牛舎等施設等の改築を計画的に進める課題があります。

### 将来の展望

門前寺地区には、「門前寺育

苗センター利用組合」・「門前寺ライスセンター利用組合」・「草地用農業機械の共同利用」などの任意の農業組織が機能しています。これらの諸農業組織との連携を進め、集落のコミュニケーションを高めて地域農業を維持継続していくことが求められています。

そのためには、「有限会社アグリサポート門前寺」も「地域農業の担い手の一翼として役割を果たしていくことが必要」と熱く語っていました。

また、後継者は、立花さんの息子さんか農業を受け継ぐ方向で考えています。近い将来に親子で門前寺地域の農業を担う姿が期待されます。

最後に、立花剛さんの「この門前寺地区に耕作放棄地を出したくない。耕作放棄地のない門前寺地区農業のため、まだまだ頑張っていきたい」と語ってくれた言葉が心に残りました。